

科目名	★博物館概論（1美デ）				開講学年	2	講義コード	1910101	区分	選択	
英文表記	Introduction to Museology				開講期	前期	開講形態		単位数	2	
担当教員	高濱 州賀子（非常勤）										
研究室	芸術学部1F 非常勤講師室						オフィス アワー j 授業日講義後の1時間をあてる				
メールアドレス	sugako-ta12@cube.ocn.ne.jp										
キーワード	学芸員										
授業概要	博物館の誕生に始まり、現代に至る歴史、その担ってきた役割、更に現代社会における博物館の在り方を学ぶ。日本で類似施設を含めると6000館に及ぶ博物館だが、種々の問題を抱えているのが現状である。それらを踏まえ、社会教育施設としての公益性、学術研究の蓄積、芸術文化への貢献など様々な課題を検討し、これからの社会で果たすべき役割について学ぶ。授業では博物館の歴史、人文系・自然史系などの種類、公立や法人立などの設置形態の違いなどを学び、博物館法の基本理念に基づく学芸員としての役割を理解する。また博物館における収集・保存・展示・教育の基本的知識を修得する。学芸員資格取得のための必修単位になる。							関連科目			
								学芸員資格取得のための必修科目である。博物館展示論、博物館情報・メディア論、博物館資料論、博物館経営論、博物館資料保存論、博物館教育論などの科目と関連している。			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	世界と日本の博物館の歴史を学び、歴史上果たした役割を知る。									
	②	博物館法・社会教育法などの基本理念を理解する。									
	③	博物館の種類と組織形態の違いを知り、日本の博物館が抱える問題を考える。									
	④	収集・保存・展示・教育普及など、博物館の基本的事業を学ぶ。									
	⑤	専門職としての学芸員が果たす役割や責任について認識する。									
	⑥	学校教育や地域において博物館・美術館の果たす役割を実例で学ぶ。									
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	10	50	0	0	10	30	100		
教科書	授業の中で指示する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	特になし
DPとの関連	学芸員課程科目を履修することで培った基礎的知識や専門的知識、論理的思考力、歴史的視点を活かして、社会で博物館や美術館等の文化施設における専門家として芸術や文化の発展に持続的に貢献できる力を身に付けることを目指す。
実務経験のある教員	
評価明細基準	開催中の任意の展覧会を見て、レポートを提出してもらおう。学芸員として展覧会に関わるとしたらどのような展覧会にしたいか、会場・テーマ・出品作品・広報等、博物館の専門職員としての姿勢に立った見解を見せて欲しい。小テストやポートフォリオにより講義内容の理解や学修達成度を見る。また、出席日数も評価する。

レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなします。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	世界の博物館の歴史 宮殿・教会・市民等の博物館を通り、近現代博物館への変遷を学ぶ。	講義	身近かな美術館・博物館などを訪れて、展覧会を観賞しました研究することが望ましい。	任意
2回	テーマ 内容	日本における博物館の歴史 明治の帝室博物館から始まり現代の博物館まで、その歴史を学ぶ。	講義	身近かな美術館・博物館などを訪れて、展覧会を観賞しました研究することが望ましい。	任意
3回	テーマ 内容	博物館法について 詳細に解説し、その基本理念を学ぶ。	講義	博物館法を読む。	任意
4回	テーマ 内容	社会教育法・文化財保護法・著作権法など 博物館と関係のある法律を解説し、必要な知識を身につける。	講義	文化財保護法を読む。	任意
5回	テーマ 内容	博物館の種類と組織形態 人文系・自然史系などの種類、公立や法人立等の設置形態などの違いを学ぶ。	講義	身近かな美術館・博物館などを訪れて、展覧会を観賞しました研究することが望ましい。	任意
6回	テーマ 内容	歴史博物館と美術館 取り扱う資料や事業の違いなど、それぞれの特色を学ぶ。	講義	身近かな美術館・博物館などを訪れて、展覧会を観賞しました研究することが望ましい。	任意
7回	テーマ 内容	博物館の仕事 収集・保存・展示・教育普及など、博物館の基本的事業を学ぶ。	講義	身近かな美術館・博物館などを訪れて、展覧会を観賞しました研究することが望ましい。	任意
8回	テーマ 内容	博物館の学芸員とは 専門職としての学芸員が果たす役割や責任について学ぶ。	講義	身近かな美術館・博物館などを訪れて、展覧会を観賞しました研究することが望ましい。	任意
9回	テーマ 内容	博物館資料の保存と修復について 具体例を参考に、その方法や担い手について学ぶ。	講義	身近かな美術館・博物館などを訪れて、展覧会を観賞しました研究することが望ましい。	任意
10回	テーマ 内容	展覧会の意義 展覧会の手法を解説し、その意義や効果について学ぶ。	講義	身近かな美術館・博物館などを訪れて、展覧会を観賞しました研究することが望ましい。	任意

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	学校教育と博物館・美術館の連携	講義	身近な美術館・博物館などを訪れて、展覧会を観賞しまた研究することが望ましい。	任意
	内容	実例を見ながら学ぶ。			
12回	テーマ	博物館におけるボランティア活動や友の会	講義	身近な美術館・博物館などを訪れて、展覧会を観賞しまた研究することが望ましい。	任意
	内容	ボランティアや友の会による支援など、博物館事業のなかで不可欠の活動を学ぶ。			
13回	テーマ	博物館と地域社会	講義	自分の出身地にある博物館・資料館について調べる。	任意
	内容	社会教育施設としての博物館の役割や地域との関わりを学ぶ。			
14回	テーマ	地域の文化財と博物館	講義	熊本地震により被災した文化財について調べる。	任意
	内容	地域の寺社や遺跡、個人蔵などの指定文化財を保護し公開する博物館の役割を学ぶ。			
15回	テーマ	熊本地震による文化財や美術品の被害	講義	被災した熊本城に関する情報を調べる。	任意
	内容	その実態を解説し、修復に向けての課題を検討する。			

科目名	★博物館資料保存論（2美デ）				開講学年	2	講義コード	1910401	区分	選択	
英文表記	Conservation of Cultural Properties in Museums				開講期	前期	開講形態		単位数	2	
担当教員	末永 崇（非常勤） 松本博幸（非常勤）										
研究室	本館1階 非常勤講師室						オフィス アワー 講義の後				
メールアドレス	splits0926@gmail.com										
キーワード	博物館 美術館 思慮 保存科学 文化財										
授業概要	<p>本科目は、学芸員資格取得を目指す学生の必修科目となっている。博物館に勤務することを想定して、資料保存に必要な保存科学の知識の習得を目的とする。また、博物館以外でも、資料(自分たちの制作した作品)をどのように取り扱うべきか、学芸員資格を持つ者としての必須の視点を養う。普段の生活のなかで、自分たちが興味を持つものを保存する際に、保存科学的な視点をどこまで持ち合わせられるか。例えば、自らがこれまで制作した作品を置いた場所を思い出し(アトリエ、教室、自分たちの部屋、実家等々)、より良い保存に適した環境に近づけるためには、何ができるのか、何かできることはないか、考えることによって、学芸員資格取得者だからこそ生まれる「資料保存に必要な視点」を身につける。</p>							関連科目			
								博物館関連科目全般(博物館概論、博物館経営論、博物館資料論、博物館展示論、博物館教育論、博物館実習)			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	身の回りの品の中にある資料の劣化が判り、気付くことができるようになる。									
	②	その資料の劣化原因を想定することができるようになる									
	③	その資料の取り扱い、保護環境改善のアイデアを構想できるようになる。									
	④	の資料に対して、劣化原因を2つ以上、保存環境上評価できる点を一つ以上想定し、善後策を構想できるようになる。									
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	50	20	0	10	20	100		
教科書	人文系博物館資料保存論 雄山閣 青木 豊 ISBN978-4-639-02219-0										
参考書	文化財の保存環境 中央公論美術出版 独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所 編 ISBN978-4-8055-0648-6										

予備知識	博物館、美術館に関する知識、
DPとの関連	学芸員課程科目を履修することで培った基礎的知識や専門的知識、論理的思考力、歴史的視点を活かして、社会で博物館や美術館等の文化施設における専門家として芸術や文化の発展に持続的に貢献できる力を身に付けることを目指す。
実務経験のある教員	
評価明細基準	講義の内容にそったテーマに関するレポートを作成し、提出する。講義中の感想、疑問等の発言、自ら美術館・博物館に赴いた経験に基づいたコメントは積極的に評価する。

美術館、博物館を訪れ、満足したところを記憶せずに記録すること。レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなす。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	資料保存の意義1	講義	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	文化財保護史(古器旧物保存方～文化財保護法までの法制史)			
2回	テーマ	資料保存の意義2	講義	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	保存科学史			
3回	テーマ	資料の劣化・損壊の原因1	講義	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	震災の記録、大規模災害時における文化財の保護			
4回	テーマ	資料の劣化・損壊の原因2	講義	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	経年劣化、生物被害、火災、自然災害			
5回	テーマ	資料保存の意識1—身近な場所での保存方法—	講義	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	保存を想定した設計ではない建物(例:文化財資料室)内での事例紹介、身近な場所での資料保存の意識、工夫、或いは簡易な保存方法の事例解説			
6回	テーマ	資料保存の意識2—歴史的・伝統的な保存方法—	講義	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	土蔵、桐箱、曝涼等の伝統的保存方法と博物館収蔵庫の考え方、事例、正倉院等の温度変化、寺院仏閣における覆い屋保存の紹介			
7回	テーマ	保存科学の役割1—博物館外—	現地研修 グループ ワーク	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	文化財資料室、埋蔵文化財センター等博物館以外の施設における保存科学の役割			
8回	テーマ	保存科学の役割2—博物館内—	実習	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	文化財保護法における公開承認施設、国宝・重文展示の際の保存科学の役割、実習、環境調査時の使用機器と取扱い			
9回	テーマ	資料の取扱いと収納1—博物館外—	講義	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	文化財資料室での取り扱い、収納			
10回	テーマ	資料の取扱いと収納2—博物館内—	実習	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	内容 高湿度、中湿度、低湿度下で保管する資料の取り扱い、収納。資料を扱う心構え、実習 梱包の実際			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	劣化・損壊資料の修理・復元1	講義	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	土器の接合、金属器の錆落とし等出土遺物の整理作業等、主に一次整理の説明			
12回	テーマ	劣化・損壊資料の修理・復元2	講義	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	修理と復元、レプリカ展示の意味			
13回	テーマ	劣化・損壊資料の修理・復元3	講義	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	鉄器、青銅器、木器等の保存処理			
14回	テーマ	劣化・損壊資料の修理・復元4	講義	教科書と講義中の配布資料を読み、要点を理解・理解しておく	任意
	内容	不定期な大規模改修・燻蒸から、IPM、定期的な日常管理へ			
15回	テーマ	博物館学芸員が持つ資料保存の理論を实践するには	演習	これまでの講義内容の整理、まとめを事前に行っておく。	任意
	内容	レポート執筆の時間に充てる			

科目名	★博物館情報・メディア論（2美デ）				開講学年	2	講義コード	1910501	区分	必修	
英文表記	Museum information and Media				開講期	前期	開講形態		単位数	2.	
担当教員	西住欣一郎（非常勤） 坂本尚文（非常勤）										
研究室	本館1階 非常勤講師室						オフィス 授業時間後の非常勤講師控室または アワー はメール				
メールアドレス	k8330712@ yahoo.co.jp										
キーワード	学芸員としての知識 学芸員としての技能 学芸員の魅力ある展示 情報発信										
授業概要	<p>本科目は学芸員資格取得を目指す学生の必修科目となっている。学芸員としての専門性を身につけるのは必要なことである。しかし、専門性だけでは学芸員としての資質としては不十分である。博物館等を訪れる人は幅広い年代の方々である。これらの方々に如何に博物館の魅力を伝えられるかが最近の大きな課題となっている。専門的なことを専門用語で解説しては、非常に分かりづらいものになる。分かり易いものにするには、表現だけでなく、視覚・聴覚に訴えるような展示手法や情報発信力が必要である。学芸員資格を取得する過程で、来館者から求められる学芸員としての資質を身につけてもらいたい。</p>							関連科目			
								その他の全学芸員科目			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	博物館や美術館の学芸員としての必要な専門的知識を身につけることができる。									
	②	来館者に向けて様々な知識や情報を分かり易く発信することができる。									
	③	コミュニケーション能力が高まり、人と人との触れ合いが円滑にできる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	0	90			10	0	100		
教科書	<p>パワーポイント及びレジメを用いる(西住)。 授業の中で指示する(坂本)。</p>										
参考書	<p>授業の中で指示する(坂本)。</p>										

予備知識	<p>・芸術・文化系の学芸員としては、美術史が基礎となる。絵画・彫刻だけでなく、歴史的な出土物についても美術史的な視点で把握することも必要である。歴史的な流れの中で、博物館や美術館での展示を組み立てることが来館者にとって分かり易いものとなる(西住)。・博物館情報・メディア論は、幅広い基礎知識が必要とされ、情報社会の整理する能力が必要とされる(坂本)。</p>
DPとの関連	<p>学芸員課程科目を履修することで培った基礎的知識や専門的知識、論理的思考力、歴史的視点を活かして、社会で博物館や美術館等の文化施設における専門家として芸術や文化の発展に持続的に貢献できる力を身に付けることを目指す。</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>・レポートの評価は、博物館の学芸員として必要な情報・メディアの活用能力の習得状況を判断するため、レポートの課題を提示する。その課題に対して、適切な観点をもち、学芸員として不可欠な対応ができるかをレポートの記述内容で判断する。・ポートフォリオは、講義での目標を達成しているかどうかを学修到達度レポートで判断する。</p>

日常生活においての観察力(スケッチ・メモ・写真)。レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなす。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	情報・人・モノの役割 内容:博物館・美術館にとって一番大切なこと	講義	予習・レポート提出	60
2回	テーマ 内容	情報・人・モノの役割 内容:博物館・美術館にとって一番大切なこと	講義	予習・レポート提出	60
3回	テーマ 内容	情報・人・モノの役割 内容:博物館・美術館にとって一番大切なこと	講義	予習・レポート提出	60
4回	テーマ 内容	観客と主催者の役割 内容:情報をどう伝達するか。	講義 / S GD	予習・レポート提出	60
5回	テーマ 内容	現代文情報を分析する 内容:新聞、テレビ、ウェブサイトから読み取る	講義	予習・レポート提出	60
6回	テーマ 内容	現代文情報を分析する 内容:新聞、テレビ、ウェブサイトから読み取る	講義	予習・レポート提出	60
7回	テーマ 内容	博物館・美術館をどう生活に活かすか。 内容:行きたくなる博物館・美術館プラン作成。	講義	予習・レポート提出	60
8回	テーマ 内容	中間試験 中間試験(レポート作成)	試験	これまでの全復習	90
9回	テーマ 内容	博物館等の現状と情報・メディア論 博物館等の課題と情報・メディアの意義について	講義	博物館・美術館等の実態の事前学習(博物館等の実見が理想的)	60
10回	テーマ 内容	博物館等の機能と情報・メディアの利活用 博物館等の情報化について	講義	博物館等の情報種類についての予習	20

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	博物館等の情報発信	講義	開かれた博物館にするための自分の考えをまとめる(復習)	20
	内容	開かれた学習の場としての役割について			
12回	テーマ	学芸員の専門的研究部門と情報化	講義	専門的な知識の習得方法についての予習	20
	内容	博物館活動と学芸員の専門性			
13回	テーマ	地域住民にとっての博物館等	講義	生涯学習の内容の予習	20
	内容	生涯学習施設としての博物館等			
14回	テーマ	博物館と著作権について	講義	著作権法の予習	20
	内容	博物館業務と知的財産権・肖像権等の保護の課題			
15回	テーマ	博物館等の展示と情報・メディアの活用	講義	これまでの講義内容の復習	40
	内容	展示の企画や情報・メディアの展示への活用を学ぶ			
16回	テーマ	定期試験	試験	後半の全復習	90
	内容	定期試験(レポート作成)			

科目名	★博物館実習（3美デ）（通年）				開講学年	3	講義コード	1910901	区分	必修	
英文表記	Museum Practicum : 3rd year				開講期	通年	開講形態		単位数	3	
担当教員	関根 浩子										
研究室	A312						オフィス アワー 金曜放課後				
メールアドレス	seki1963@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	学外見学実習 企画(特別)展準備 学外館園実習準備										
授業概要	<p>本科目は学芸員資格を取得するための必修科目であり、学外館園実習に行く前に履修を開始していなければならない科目でもある。学芸員課程において学んだ理論や知識、技術を生かして学内並びに学外の館園で実体験することで、多様な館種の実態を理解するとともに、学芸員として必要とされる知識や技術等の基礎、基本を習得する。配布する資料を予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して下記に掲げた参考書を自主的に参照すること。また、授業時間内で作成できなかった課題は図書館や自宅等で時間を完成させること。</p>							関連科目			
								学芸員課程全科目			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	資料の取り扱いや収集、保管、展示、整理、分類、調査研究の手法を学び、自身でもできるようになる。									
	②	博物館の理念や設置目的、業務の流れを実体験を通して理解できるようになる。									
	③	学芸員としての責任感や意識を身に付けることができるようになる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法(配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表(口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	30	0	0	10	60	100		
教科書	授業の中で適宜配布する										
参考書	授業の中で指示する										

予備知識	学芸員課程全科目
DPとの関連	学芸員課程科目を履修することで培った基礎的知識や専門的知識、論理的思考力、歴史的視点を活かして、社会で博物館や美術館等の文化施設における専門家として芸術や文化の発展に持続的に貢献できる力を身に付けることを目指す。特に4年時の館園実習に先立って、これまで学芸員課程科目の履修のなかで学んだことを総復習しながら、美術館や博物館等の専門家となるための専門的知識や技術の修得を確かなものにするとともに、実践力、汎用力、応用力を身に付ける。
実務経験のある教員	
評価明細基準	見学実習後に提出させるレポートや学内実習における積極性、ポートフォリオ、館園実習先の評価、事前・事後指導時の評価、出席状況を総合して評価する。

原則として、「博物館実習」以外の全での学芸員養成科目が履修済みであることが履修の条件である。レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	ガイダンス1	講義	なし	0
	内容	学芸員課程・博物館実習ガイダンス①(4月)			
2回	テーマ	仕事の概要	講義	復習	30
	内容	学芸員の仕事1			
3回	テーマ	仕事の概要	講義	復習	30
	内容	学芸員の仕事2			
4回	テーマ	特別展準備	講義 実 習	復習、企画書作成・立案	90
	内容	展覧会の種類、企画・立案			
5回	テーマ	特別展準備	講義 実 習	企画書作成・立案	60
	内容	特別展の企画・立案、企画書作成1			
6回	テーマ	特別展準備	R-P SGD	企画案作成	0
	内容	企画書作成2、担当決定、作品・資料の選定			
7回	テーマ	学外見学実習1	実習 AL P BL	レポート作成(復習)	90
	内容	学外見学会1回目(近隣の美術館等でのレクチャー受講、見学)			
8回	テーマ	見学会結果報告	PBL	なし	0
	内容	見学会1の結果報告、レポート提出・添削			
9回	テーマ	展覧会準備	実習 AL	復習	30
	内容	出品交渉・依頼方法、借用書の作成			
10回	テーマ	資料の取り扱い	講義 実習 AL	復習	30
	内容	第一次資料(考古・美術作品・古文書等)の取り扱い1			

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	資料の取り扱い	講義 実習 AL	復習	30
	内容	第二次資料(考古・美術作品・古文書等)の取り扱い②			
12回	テーマ	資料の梱包	講義 実習 AL	復習	30
	内容	第二次資料(考古・美術作品・古文書等)の梱包			
13回	テーマ	資料の計測・実測	講義 実習 AL	復習	30
	内容	第二次資料(考古・美術作品・古文書等)の実測、調書作成の計測			
14回	テーマ	資料の写真撮影	実習 AL	なし	0
	内容	第二次資料(考古・美術作品・古文書等)の写真撮影①			
15回	テーマ	資料の写真撮影	実習 AL	なし	0
	内容	第二次資料(考古・美術作品・古文書等)の写真撮影①			
16回	テーマ	ガイダンス2	講義	なし	0
	内容	博物館実習ガイダンス②、第1回事前指導関連書類配布(3年次)(7月)			
17回	テーマ	学外見学実習2	実習 AL	レポート作成(復習)	90
	内容	学外見学実習2回目(近隣の美術館等でのレクチャー受講、見学)			
18回	テーマ	見学実習報告	PBL	なし	0
	内容	学外見学実習報告・レポート作成・添削②			
19回	テーマ	画像・情報のデジタル化	実習 AL	遅れている場合は空き時間にも自主的に作業	90
	内容	第二次資料の画像・情報のデジタル化①			
20回	テーマ	画像・情報のデジタル化	実習 AL	遅れている場合は空き時間にも自主的に作業	90
	内容	第二次資料の画像・情報のデジタル化②			

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
21回	テーマ	第1回事前指導	講義	なし	0
	内容	第1回事前指導(実習申込書提出、希望する実習先に関する報告)(9~10月)			
22回	テーマ	資料・作品カード作成	実習 AL	遅れている場合は空き時間にも自主的に作業	
	内容	デジタル化したデータを用いた資料・作品カード作成1			
23回	テーマ	資料・作品カード作成	実習 AL	遅れている場合は空き時間にも自主的に作業	
	内容	デジタル化したデータを用いた資料・作品カード作成2			
24回	テーマ	学外見学実習3	実習 AL	レポート作成(復習)	90
	内容	学外見学実習(3回自)(近隣の美術館等でのレクチャー受講、見学)			
25回	テーマ	見学実習報告	PBL	なし	0
	内容	学外見学実習報告・レポート作成・添削3			
26回	テーマ	特別展準備	実習 AL	担当の仕事が遅れている場合は、自主的に作業	90
	内容	特別展の準備(ポスター、リーフレット、図録等の原稿作成、原稿執筆依頼)			
27回	テーマ	特別展準備	実習 AL	担当の仕事が遅れている場合は、自主的に作業	90
	内容	特別展の準備(マスコミ、他への広報)			
28回	テーマ	特別展準備	実習 AL	担当の仕事が遅れている場合は、自主的に作業	90
	内容	特別展の準備(解説パネル、キャプションの原稿作成、印字)1			
29回	テーマ	特別展準備	実習 AL	担当の仕事が遅れている場合は、自主的に作業	90
	内容	特別展の準備(解説パネル、キャプションの原稿作成、印字)2			
30回	テーマ	特別展準備	実習 AL	担当の仕事が遅れている場合は、自主的に作業	90
	内容	特別展の準備(展示台、展示ケース等の作製・準備)			

科目名	★博物館実習（4美デ）（通年）				開講学年	4	講義コード	1911001	区分	必修	
英文表記	Museum Practicum : 4th year				開講期	通年	開講形態		単位数	3	
担当教員	関根 浩子										
研究室	A312						オフィス アワー 金曜放課後				
メールアドレス	seki1963@art.sojo-u.ac.jp										
キーワード	特別展 館園実習										
授業概要	<p>本科目は学芸員資格を取得する上で必ず履修しなければならない必修科目の一つである。学芸員課程において学んだ理論や知識、技術を生かして学内並びに学外の館園で実体験することで、多様な館種の実態を理解するとともに、学芸員として必要とされる知識や技術等の基礎、基本を習得する。配布する資料を予習、復習し、質問に答えられるようにしておくとともに、図書館等を利用して下記に掲げた参考書を自主的に参照すること。また、授業時間内で作成できなかった課題は図書館や自宅等で時間を完成させること。</p>							関連科目			
								学芸員課程全科目			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	資料の取り扱いや収集、保管、展示、整理、分類、調査研究の方法を理解し、自身でもできるようになる。									
	②	博物館の理念や設置目的、業務の流れ等を実体験を通して理解できるようになる。									
	③	学芸員としての責任感や意識を身につけることができるようになる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	0	30	0	0	10	60	100		
教科書	授業の中で適宜配布する										
参考書	授業の中で適宜配布する										

予備知識	学芸員課程全科目
DPとの関連	学芸員課程科目を履修することで培った基礎的知識や専門的知識、論理的思考力、歴史的視点を活かして、社会で博物館や美術館等の文化施設における専門家として芸術や文化の発展に持続的に貢献できる力を身に付けることを目指す。特に、4年時の館園実習に先立って、これまで学芸員課程科目の履修のなかで学んだことを総復習しながら、美術館や博物館等の専門家となるための専門的知識や技術の修得を確かなものにするとともに、実践力、汎用力、応用力を身に付ける
実務経験のある教員	
評価明細基準	見学実習後に提出させるレポートや学内実習における積極性、ポートフォリオ、館園実習先の評価、事前・事後指導時の評価、出席状況を総合して評価する。

原則として、「博物館実習」以外の全での学芸員養成科目が履修済みであることが履修の条件である。レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなします。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	ガイダンス	講義	なし	0
	内容	学芸員課程・博物館実習ガイダンス(4月)			
2回	テーマ	保険料産出	講義 演習	復習	30
	内容	展示品の保険料の算出			
3回	テーマ	特別展準備	実習	担当分が遅れている人は放課後も作業	90
	内容	展示準備(原稿の出力、のりハネ作成、カッティング、ほか)			
4回	テーマ	特別展準備	実習	なし	00
	内容	特別展の展示(崇城大学ギャラリー一展利用)			
5回	テーマ	特別展準備	実習	なし	0
	内容	特別展の展示(崇城大学ギャラリー一展利用)			
6回	テーマ	特別展準備	実習	なし	0
	内容	特別展の展示(崇城大学ギャラリー一展利用)			
7回	テーマ	特別展準備	実習	なし	0
	内容	特別展の展示(崇城大学ギャラリー一展利用)			
8回	テーマ	特別展撤収	実習	なし	0
	内容	特別展の撤収(崇城大学ギャラリー一展利用)			
9回	テーマ	特別展撤収	実習	なし	0
	内容	特別展の撤収(崇城大学ギャラリー一展利用)			
10回	テーマ	特別展撤収	実習	なし	0
	内容	特別展の撤収(崇城大学ギャラリー一展利用)			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	学外館園実習	実習	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習(指定された期間(1週間～10日前後)における受入れ先での実習)			
12回	テーマ	学外館園実習	実習	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習(指定された期間(1週間～10日前後)における受入れ先での実習)			
13回	テーマ	学外館園実習	実習	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習(指定された期間(1週間～10日前後)における受入れ先での実習)			
14回	テーマ	学外館園実習	実習	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習(指定された期間(1週間～10日前後)における受入れ先での実習)			
15回	テーマ	学外館園実習	実習	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習指定された期間(1週間～10日前後)における受入れ先での実習			
16回	テーマ	学外館園実習	実習	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習指定された期間(1週間～10日前後)における受入れ先での実習			
17回	テーマ	学外館園実習	実習	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習指定された期間(1週間～10日前後)における受入れ先での実習			
18回	テーマ	学外館園実習	実習	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習(指定された期間(1週間～10日前後)における受入れ先での実習)			
19回	テーマ	学外館園実習	実習	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習(指定された期間(1週間～10日前後)における受入れ先での実習)			
20回	テーマ	学外館園実習	実習	実習日誌の執筆	60
	内容	学外館園実習(指定された期間(1週間～10日前後)における受入れ先での実習)			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
21回	テーマ	事後指導	講義 演習	なし	0
	内容	事後指導 館園実習結果報告(個別面談による事後指導)I(10月~)			
22回	テーマ	事後指導	講義 演習	なし	0
	内容	事後指導 館園実習結果報告(個別面談による事後指導)I(10月~)			

科目名	★生涯学習概論（1美デ）				開講学年	1	講義コード	2910201	区分	必修		
英文表記	Introduction to Lifelong Learning				開講期	後期	開講形態		単位数	2		
担当教員	上杉奈緒子（非常勤）											
研究室	本館1階 非常勤講師室						オフィス アワー 火曜日第5限目					
メールアドレス	nao-uesu@ezweb.ne.jp											
キーワード	学芸員 生涯学習											
授業概要	<p>生涯学習とは何か？「鳥の目、魚の目、虫の目」の視点をもって、主体的、対話的、深い学びを行う。グローバル化し、変化の激しい社会に適応していくためには、学び続けなければならない。「誰もが、いつでも、どこでも学ぶことができ、また、その学習成果を生かす」には、今後、ますます日本人としての自らのアイデンティティを確立し、常に生き方を変革し、社会を変える視点で行動し続けることが必要である。平成18年に教育基本法が改正され、科学技術の進歩、情報化、国際化、少子高齢化などの今日的な課題を踏まえて、教育の基本理念が示された。教育基本法第3条で生涯学習の理念として、「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない」と規定されている。また、平成30年の中央教育審議会答申等で今後5年にわたる教育振興基本計画が立てられ、生涯学習について新たな取組が求められている。この講座では、生涯学習理念等について世界・日本の大きな目標を知り、「魚の目」の視点で時代の流れに沿った生涯学習の経緯を学び、そして、「虫の目」の視点で身近で具体的な実践例を学んでいくことにする。学ぶ手法としては、ワークショップによる参加体験型学習を取り入れる。社会の課題に対して、自らの問題意識をもって取り組んでほしい。本科目は学芸員資格取得を目指す学生の必修科目である。</p>								<p>関連科目</p> <p>本科目「生涯学習概論」では、生涯学習社会構築のための生涯学習理念を十分理解するとともに、学芸員資格取得のための他の科目と併せて理解を深めていく。</p>			
									建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
教職関連区分									学修・教育目標			
									JABEE基準			
JABEE記号	学生の到達度目標											
	①	専門的職員としての学芸員の使命と果たす役割を生涯学習の観点から具体的に説明することができるようになる。										
	②	生涯学習の歴史的経緯や今後の方向性について法令や答申等をまとめ、説明することができるようになる。										
	③	生涯学習の観点から、資料を基に社会の問題に気付き、解決策を考え提案することができるようになる。										
	④											
	⑤											
	⑥											
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計			
	0	50	0	30	0	0	10	10	100			
教科書	担当教員作成のテキスト「生涯学習概論」											
参考書	<p>ヒトはなぜ戦争をするのか？ 講談社 アインシュタイン・フロイト 9784062923682</p> <p>共に生きる地域コミュニティ 東京電機大学出版局 遠藤薫 9784501631505</p>											

予備知識	<p>ユネスコは1946年に創設され、今日では一般的となっている生涯学習もその活動の一環としてユネスコが提唱した概念の一つである。我が国における生涯学習は、1981年(昭和56年)中央教育審議会答申「生涯学習について」、1985年(昭和60年)から第4次にわたる臨時教育審議会答申の中(生涯学習体系への移行)、1990年(平成2年)6月いわゆる「生涯学習振興法」成立等により、生涯学習推進の必要性が高まってきたところである。以来、中央教育審議会・生涯学習審議会・大学審議会等各答申が出される中、平成18年教育基本法第3条において「生涯学習の理念」が新設されている。平成30年に、中央教育審議会が「第3期教育振興基本計画」について答申がまとめられた。その基本的な方針として、「夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する」「社会の持続的な発展を牽引するための多様な力を育成する」「生涯学び、活躍できる環境を整える」「誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットを構築する」「教育政策推進のための基盤を整備する」とある。今後、生涯学習についても、その関連施設等についても時代とともに変化が求められる。学芸員は、博物館法第4条に基づく専門的職員である。また、博物館は、社会教育法第9条にある社会教育のための機関である。</p>
DPとの関連	<p>学芸員の資格取得のためには生涯学習概論は必修となっている。また、平成30年教育審議会答申における「第3期教育振興基本計画」では、2030年以降の社会を展望した教育政策の重点事項として、「自立」「協働」「創造」の方向性を継続し、超スマート社会の実現に向けた技術革新が進展する中、「人生100年時代」を豊かに生きていくためには、「人づくり革命」「生産性革命」の一環として、生涯にわたる学習や能力向上が必要である。教育を通じて生涯にわたる一人一人の「可能性」と「チャンス」を最大化することを今後の教育政策の中心に据えて取り組むとしている。その一つに、「生涯学び、活躍できる環境を整える」としている。本講義では、優れた応用力を有し、社会の多種多様な課題を解決するための課題発見・課題解決能力を身に付けるとともに、専門的職員としての学芸員の使命と役割を身に付けることができる。学芸員課程科目を履修することで培った基礎的知識や専門的知識、論理的思考力、歴史的視点を生かして、社会で博物館や美術館等の文化施設における専門家として芸術や文化の発展に貢献できる力を身に付けることを目指す。</p>
実務経験のある教員	
評価明細基準	<p>16回目に定期試験を実施し、15回にわたる講義内容について理解することができたのかを評価する。また、講義に関する課題を提示し、レポートやポートフォリオも評価の対象とする。生涯学習は、その理念をどのように具体的に実践するのかが求められており、講義中のワークショップでの発言等も評価の対象とする。</p>

本講義では、ユネスコの生涯学習理念及び日本の教育基本法第3条「生涯学習の理念」を踏まえ、生涯学習社会の構築を目指すうえで、専門的職員としての資質や能力の育成が求められることから、学習者の積極的な参加態度を期待します。また、正規出席については授業開始5分以内、遅刻出席については授業開始30分までとします。30分を超えた場合は欠席扱いとします。なお、レポート等の提出部のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)		授業内容	講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ 内容	オリエンテーション 世界はどこへ向かおうとしているのか？これからの社会で生き抜く方を付ける生涯学習（鳥の目、魚の目、虫の目の視点から）今後の学習の方向性を知る。	講義及び SGD	2030年、そのとき世界はどうなっているのか、自分にとって必要な社会を生き抜く力とは何かまとめておく。	40
2回	テーマ 内容	学ぶことは平和をつくる 鳥の目の視点 生涯学習は平和を守る？(ヒトはなぜ戦争をするのか？アインシュタインとフロイトの往復書簡)を読んで、学ぶ意義を知る)	講義及び SGD	日本国憲法前文を読んでおく。生涯学習が平和を守るとはどうか考え、自分なりの意見をまとめておく。	60
3回	テーマ 内容	権利獲得の道 鳥の目・魚の目の視点 私たちの学ぶ権利とは？(権利獲得の歴史—マグナカルタから世界人権会議までの資料を読んで、基本的権利について知る)	講義及び SGD	日本国憲法前文を読んでおく。生涯学習が平和を守るとはどうか考え、自分なりの意見をまとめておく。	60
4回	テーマ 内容	生涯学習の始まり 鳥の目の視点 私たちは何を学ぶのか？(ユネスコ生涯学習理念—ボニール・ラングラン「生涯教育」、エドガー・フォール「未来の学習」、ジャック・ドロール「学習：秘められた宝」)	講義及び SGD	ユネスコの生涯学習理念を読んでおく。自分はなぜ学んでいるのか「学ぶことの意義」をまとめておく。	60
5回	テーマ 内容	日本人とは 鳥の目の視点 世界が驚愕した日本人の生き方を学ぶ—グローバル化の中で、私たちは、日本人としてどんな生き方をしていくのか？	講義及び SGD	ユネスコの生涯学習理念を読んでおく。自分はなぜ学んでいるのか「学ぶことの意義」をまとめておく。	60
6回	テーマ 内容	日本における生涯学習 魚の目の視点 私たちは、何を学ぶのか？～人生100年時代を豊かに生きていくために（日本における生涯学習の流れの中で）	講義及び SGD	中央教育審議会答申・生涯学習審議会答申を読んでおく。社会教育法等の法令についてまとめておく。	60
7回	テーマ 内容	生涯学習としての家庭教育 虫の目の視点 生涯学習で家庭教育が変わる(子どもを取り巻く社会問題の解決のために行われている家庭教育プログラム等の取組から)	講義及び SGD	子どもを取り巻く社会問題等について新聞記事から調べておく。	60
8回	テーマ 内容	生涯学習としての学校教育 虫の目の視点 生涯学習で学校教育が変わる(開かれた学校づくりの取組から)	講義及び SGD	学校を取り巻く様々な問題について新聞記事から調べておく	60
9回	テーマ 内容	生涯学習のまちづくり 虫の目の視点 生涯学習で地域教育が変わる(生涯学習のまちづくりの取組から)	講義及び SGD	地域を取り巻く社会問題について、また、その解決のために行われている取組について新聞記事から調べておく。	60
10回	テーマ 内容	生涯学習で社会問題を解決する 虫の目の視点 超スマート社会Society5～AIは世界を変える—生涯学習は、社会の多種多様な課題を解決できるのか？	講義及び SGD	身の回りの社会問題に気づき、どうしたら解決できるかをまとめておく。	60

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	社会問題を解決する団体等	講義及び SGD	地域の社会問題を解決する様々な機関の役割(社会教育施設、社会教育社会教育関係団体、ボランティア、NPO等)について調べておく。	60
	内容	虫の目の視点 生涯学習の町づくり～地域における社会問題を解決するのは誰？			
12回	テーマ	具体的実践例から	講義及び SGD	自分自身は何を学び続けるのかに気づき、考え、まとめておく。	60
	内容	虫の目の視点 生涯学習の視点から、社会の問題を具体的に解決する(地域防災の取組から)			
13回	テーマ	生涯学習と社会教育施設等の役割	講義及び SGD	様々な社会教育施設の役割について調べておく。	60
	内容	虫の目の視点 生涯学習における公民館、図書館、博物館、美術館、青少年施設などの役割を理解する。			
14回	テーマ	生涯学習施設としての美術館や博物館の今後の方向性	講義及び SGD	博物館や美術館において、社会問題を解決するために、学芸員として何が出来るかをまとめておく。	60
	内容	虫の目の視点 過去から未来へつなぐ美術館や博物館の新たな取組を知る。			
15回	テーマ	まとめ			60
	内容	まとめと定期試験			

科目名	★博物館教育論（1美デ）				開講学年	1	講義コード	2910301	区分	必須	
英文表記	Museum Education				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	中村幸史郎（非常勤）										
研究室	本館1階非常勤講師室						オフィス アワー 授業時間後の非常勤講師控室				
メールアドレス	nakamura0529@hotmail.com										
キーワード	博物館と来館者との関わり合い										
授業概要	<p>本科目は学芸員資格取得を目指す学生の必修科目である。教育基本法及び社会教育法に基づき、博物館法の国民の健全な発達を図るための方策を考えるものである。博物館活動の中でも展示活動や教育普及活動を通じ、来館者に対する教育をどのように行うかについて考える。展示活動と教育普及活動の現状と課題を整理し、自ら教育普及活動を体験し、伝える力と実践力を養成するものである。</p>							関連科目			
								博物館資料論、生涯学習論（基礎科目）、博物館展示論（発展科目）			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	教育基本法と社会教育及び博物館法を理解できるようになる。									
	②	博物館の種類を理解できるようになる。									
	③	博物館の業務と学芸員の業務を理解できるようになる。									
	④	博物館の教育普及活動を理解できるようになる。									
	⑤	文化財に対する理解力を身に付けることができる。									
	⑥	博物館の教育普及活動の実践力を身に付けることができる。									
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	50	0	50	0	40	10	0	100		
教科書	使用しない。										
参考書	なし										

予備知識	特になし
DPとの関連	博物館における教育普及活動が行える人材を育成し、学校教育や社会教育との連携を図ることで、教育施設としての博物館の役割を果たすことができる。学芸員課程科目を履修することで培った基礎的知識や専門的知識、論理的思考力、歴史的視点を活かして、社会で博物館や美術館等の文化施設における専門家として芸術や文化の発展に持続的に貢献できる力を身に付けることを目指す。
実務経験のある教員	
評価明細基準	博物館活動の理解と実践を通して学芸員としての技量の習得度合いを確認する。合わせてレポート作成による博物館活動の理解度を評価する。

レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなす。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	博物館教育の目的	講義	配布資料の復習	30
	内容	博物館法などの法律に基づく教育の目的について			
2回	テーマ	博物館の業務	講義	配布資料の復習	30
	内容	博物館の種類と業務について			
3回	テーマ	博物館における教育の意義1	講義	配布資料の復習	30
	内容	展示活動における教育について1			
4回	テーマ	博物館における教育の意義2	講義	配布資料の復習	30
	内容	展示活動における教育について1			
5回	テーマ	博物館における教育の意義3	講義	配布資料の復習	30
	内容	研修活動における教育について1			
6回	テーマ	博物館における教育の意義4	講義	配布資料の復習	30
	内容	研修活動における教育について2			
7回	テーマ	博物館教育の実務1	講義	配布資料の復習	30
	内容	文化財から学ぶ先人の知恵と技術			
8回	テーマ	博物館教育の実務3	講義、実習	課題が遅れている場合は時間外に自主的に課題を進める。	60
	内容	体験学習1 木造建築の技と道具類			
9回	テーマ	博物館教育の実務4	実習	課題が遅れている場合は時間外に自主的に課題を進める。	60
	内容	体験学習2 曲尺による計算の方法			
10回	テーマ	博物館教育の実務5	実習	課題が遅れている場合は時間外に自主的に課題を進める。	60
	内容	体験学習3 石造眼鏡橋の設計方法			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	博物館教育の実務6	実習	課題が遅れている場合は時間外に自主的に課題を進める。	60
	内容	体験学習4 竹細工の実習 ビジセット作り			
12回	テーマ	博物館教育の実務7	実習	課題が遅れている場合は時間外に自主的に課題を進める。	60
	内容	体験学習5 竹細工の実習 ビジセット作り			
13回	テーマ	博物館教育の実務8	実習	課題が遅れている場合は時間外に自主的に課題を進める。	60
	内容	体験学習6 布わらじ作り			
14回	テーマ	博物館教育の実務9	実習	課題が遅れている場合は時間外に自主的に課題を進める。	60
	内容	体験学習7 布わらじ作り			
15回	テーマ	博物館教育の実務10	実習	課題が遅れている場合は時間外に自主的に課題を進める。	60
	内容	体験学習8 布わらじ作り			

科目名	★博物館経営論（2美デ）				開講学年	2	講義コード	2910601	区分	必修	
英文表記	Theory of Museum Management				開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	島津義昭（非常勤）										
研究室	芸術学部棟 1階事務室						オフィス アワー 授業終了後の非常勤講師控室				
メールアドレス	yosiakicar@ezweb.ne.jp										
キーワード	博物館運営 博物館経営										
授業概要	<p>本科目は、学芸員資格取得を目指す学生の必修科目となっている。博物館を経営という視点から見ていく。学芸員となった場合の基礎的な知識と技術を理解し、身につける。</p>							関連科目			
								その他の全学芸員課程科目			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	博物館を博物館経営の面からみる方法を十分理解することができるようになる。									
	②	博物館を巡る社会的状況について十分理解できるようになる。									
	③	博物館の表には表れない事象について理解できるようになる。									
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計		
	0	0	40	40	0	0	10	10	100		
教科書	授業の中でその都度、教示する										
参考書	ミュージアム・マネージメント博物館運営の方法と実践 東京堂出版										

予備知識	博物館教育論・博物館概論・博物館情報メディア論・博物館展示論・博物館資料論・博物館資料保存論
DPとの関連	学芸員課程科目を履修することで培った基礎的知識や専門的知識、論理的思考力、歴史的視点を活かして、社会で博物館や美術館等の文化施設における専門家として芸術や文化の発展に持続的に貢献できる力を身に付けることを目指す。
実務経験のある教員	
評価明細基準	基礎的な事項から講義を積み重ねていくので、授業に出席し、講義を聞くことが必要である。授業の取得の評価は、小テストやレポートの他、授業中の受講態度で判断するので、授業への積極的な参加が望まれる。

同上。レポート等の提出物のコピー&ペーストなどの剽窃は不正行為とみなす。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	博物館になぜ経営は必要か	室内講義	配布資料の復習	90
	内容	博物館になぜ経営は必要か			
2回	テーマ	博物館の人材	同	配布資料の復習	90
	内容	博物館の人材(1)			
3回	テーマ	博物館の人材	同	配布資料の復習	90
	内容	博物館の人材(2)			
4回	テーマ	博物館経営の手法	同	配布資料の復習	90
	内容	マネージングと利用者調査			
5回	テーマ	博物館経営の手法	同	配布資料の復習	90
	内容	事業の評価とシステム			
6回	テーマ	博物館の経営形態	同	配布資料の復習	90
	内容	博物館の経営形態(1)			
7回	テーマ	博物館の経営形態	同	配布資料の復習	90
	内容	博物館の経営形態(2)			
8回	テーマ	博物館の経営形態	同	配布資料の復習	90
	内容	博物館の経営形態(3)			
9回	テーマ	博物館を取り巻く人々	同	配布資料の復習	90
	内容	博物館を取り巻く人々(1)			
10回	テーマ	博物館を取り巻く人々	同	配布資料の復習	90
	内容	博物館を取り巻く人々(2)			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	博物館を取り巻く人々	同	配布資料の復習	90
	内容	博物館を取り巻く人々(3)			
12回	テーマ	博物館を取り巻く人	同	配布資料の復習	90
	内容	博物館を取り巻く人々(4)			
13回	テーマ	博物館の情報	同	配布資料の復習	90
	内容	博物館の情報			
14回	テーマ	博物館経営と情報	同	配布資料の復習	90
	内容	博物館経営と情報			
15回	テーマ	博物館には何が必要か？	同	配布資料の復習	90
	内容	博物館には何が必要か？			

科目名	★博物館資料論（2美デ）				開講学年	2	講義コード	2910701	区分	選択	
英文表記	Theory of Cataloging Museum Collection				開講期	後期（集中）	開講形態		単位数	15	
担当教員	石原 浩（非常勤） 山崎 撰（非常勤） 鳥津亮二（非常勤） 早瀬輝美（非常勤） 林 千寿（非常勤） 宮原江梨（非常勤）										
研究室	本館1階 非常勤講師室						オフィス アワー 授業終了後の教室				
メールアドレス	hiro-ieo@ city.yatsushiro.lg.jp										
キーワード	博物館 第一次資料 歴史 民俗 美術										
授業概要	<p>本科目は、学芸員資格取得を目指す学生の必修科目となっている。モノに対する整理・保存・調査・研究・展示の技術と知識を学び、「モノ」を「博物館資料」へと昇華させるノウハウを習得する。本講座では、歴史や民俗資料、美術工芸作品など、博物館が所蔵する実物資料を前に、本物に触れる喜びと緊張を味わいながら、現場と同等の調書作成や写真撮影など一連の作業過程を学び、学芸員として必要な技術と知識を身につける。</p>							関連科目			
								その他の全学芸員課程科目			
教職関連区分								建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
								学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標										
	①	資料の整理・保存・調査・研究・展示の技術と知識を学ぶことにより、モノを文化財へと昇華させることができるようになる。									
	②										
	③										
	④										
	⑤										
	⑥										
評価方法（配点）	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表（口頭・実技）	作品	ポートフォリオ	その他	合計		
	0	0	0	45	0	0	10	45	100		
教科書	なし										
参考書	新博物館学教科書 博物館学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 株式会社 学文社 大堀哲、水嶋英治 978-4-7620-2284-5 ほか 博物館展示論 株式会社 講談社サイエンティフィック 黒沢浩 978-4-06-156531-9										

予備知識	日頃から博物館や美術館に通い、博物館資料がどのように展示され、文化財としての価値を見出す習慣を身に付けること。
DPとの関連	学芸員を履修することで培った基礎知識や専門知識、理論的な思考力、歴史的視点を活かして、社会で博物館や美術館などの文化施設における専門家として、文化や芸術の発展に持続的に貢献できる力を身に付けることを目指す。
実務経験のある教員	
評価明細基準	レポート(45点)、ポートフォリオ(10点)、授業態度・積極性(45点)

日頃から博物館や美術館に通い、博物館資料がどのように展示され、文化財としての価値を見出す習慣を身に付けること。レポート等の提出物のコピーアンドペーストなどの剽窃は不正行為とみなされます。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	博物館資料の特性と取り扱い1	講義	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる	15
	内容	学芸員として必要な博物館資料の整理と調査の方法を学ぶ。			
2回	テーマ	博物館資料の特性と取り扱い2	講義	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる5	15
	内容	学芸員として必要な博物館資料の整理と調査の方法を学ぶ。			
3回	テーマ	博物館資料の特性と取り扱い3	実技	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる	15
	内容	学芸員として必要な博物館資料の整理と調査の方法を学ぶ。			
4回	テーマ	民俗資料の取り扱いと活用1	講義	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる	15
	内容	実物に触れながら民俗資料に対する認識を深め、博物館での活用法を学ぶ。			
5回	テーマ	民俗資料の取り扱いと活用2	実技	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる	15
	内容	実物に触れながら民俗資料に対する認識を深め、博物館での活用法を学ぶ。			
6回	テーマ	美術工芸品の調査と取り扱い1	講義	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる	15
	内容	染織や漆工などの工芸品の実物に触れながら調査の取り方を学ぶ。			
7回	テーマ	美術工芸品の調査と取り扱い2	実技	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる	15
	内容	染織や漆工などの工芸品の実物に触れながら調査の取り方を学ぶ。			
8回	テーマ	歴史資料の調査と取り扱い1	講義	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる	15
	内容	古文書資料を例に、学芸員として必要な整理と調査の方法を学ぶ。			
9回	テーマ	歴史資料の調査と取り扱い2	実技	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる	15
	内容	古文書資料を例に、学芸員として必要な整理と調査の方法を学ぶ。			
10回	テーマ	陶磁器の調査と取り扱い1	講義	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる	15
	内容	陶磁器の取り扱いと調査の方法を学ぶ。			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	陶磁器の調査と取り扱い2	実技	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる	15
	内容	陶磁器の取り扱いと調査の方法を学ぶ			
12回	テーマ	仏像の調査と写真撮影1	講義	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる	15
	内容	収蔵品の仏像を使って調書の取り方と報告書に使える写真撮影法を学ぶ。			
13回	テーマ	仏像の調査と写真撮影2	実技	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる	15
	内容	収蔵品の仏像を使って調書の取り方と報告書に使える写真撮影法を学ぶ。			
14回	テーマ	仏像の調査と写真撮影3	グループワーク	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる	15
	内容	収蔵品の仏像を使って調書の取り方と報告書に使える写真撮影法を学ぶ。			
15回	テーマ	仏像の調査と写真撮影4	グループワーク	配布資料を再読して、講義と実技から学んで重要と思ったことを文章にまとめる	15
	内容	収蔵品の仏像を使って調書の取り方と報告書に使える写真撮影法を学ぶ。			
16回	テーマ				180
	内容	レポート作成			

科目名	★博物館展示論（2美デ）			開講学年	2	講義コード	2910801	区分	選択	
英文表記	Museum and Exhibition Studies			開講期	後期	開講形態		単位数	2	
担当教員	中村 玲史（非常勤）									
研究室	本館1階 非常勤講師室					オフィス アワー 授業時間後の講義室				
メールアドレス	co07gito@gmail.com									
キーワード	キュレーターの役割 展覧会の企画、開催 展示空間のデザインと展示の実務									
授業概要	<p>本科目は、学芸員資格取得を目指す学生の必修科目となっている。授業概要 1)キュレーターという存在とその役割について理解する。2)展覧会のアイデアを実際の企画として立案していく過程について理解する。3)展示空間のデザインと展示の実務について考察する。4)作品の配置、照明、鑑賞素材の準備など、来場者にとってより良い鑑賞の場を提供することについて考察する。5)予算、交渉、契約他、展覧会を支える諸業務について理解する。学修上の助言 1)テキストは前もって読んでおくこと。2)コメントシートは毎回提出すること。2)美術館や博物館、資料館等のスケジュールについて日頃から関心を持ち、折りに触れて自ら鑑賞の機会を持つこと。</p>						関連科目			
							関連科目 1)日本美術史 2)考古学と文化財Ⅰ、Ⅱ 3)生涯学習概論、博物館教育論、博物館概論、博物館情報・メディア論、博物館経営論、博物館資料論、博物館資料保存論			
教職関連区分							建築学科のみ	建築総合	建築計画	建築構造
							学修・教育目標			
JABEE記号	学生の到達度目標									
	①	キュレーターという仕事の内容と役割を認識し、展覧会のアイデアを現実化し、展覧会を開催して終了するまでの一連の業務について理解することができる。								
	②	自己の目指す学芸員のあり方を明確にし、スキルを高めようとするすることができる。								
	③									
	④									
	⑤									
	⑥									
評価方法 (配点)	中間試験	定期試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計	
	0	0	0	60	0	0	10	30	100	
教科書	THE CURATOR'S HANDBOOK フィルムアート社 エドワード・ジヨン 978-4-8459-1561-3									
参考書	文化財の保存環境 中央公論美術出版 東京文化財研究所 978-4-8055-0648-6 学芸員のための展示照明ハンドブック 講談社 藤原 工 978-4-06-156521-0 美学入門 朝日新聞出版 中井正一 978-4-02-259132-6 美について 講談社現代新書 今道友信 978-4-06-115724-8									

予備知識	予備知識 1)日本美術の流れや時代ごとの特徴、歴史的な文化財や著名な作品、作家に関する一般的な知識。2)西洋美術の流れや時代、国、地域ごとの特徴、歴史的な文化財や著名な作品、作家に関する一般的な知識。
DPとの関連	芸術学部の diploma policy には次の3項目が掲げられている。1)美術やデザインの研究活動を通して培った豊かな感性と社会人として相応しい倫理観を身に付けたもの。2)美術・デザイン領域の専門家としての基礎的な技術や知識を総合的に身に付けたもの。3)社会における美術・デザインの役割を認識し、現代の課題を発見・解決する能力を身に付けたもの。学芸員養成課程の科目はこの何れとも密接な関連を有する。特に、3)の「社会における美術・デザインの役割を認識し、現代の課題を発見・解決する能力を身に付けたもの」は、美術館や博物館において、資料の収集と保存、調査研究、展覧会の企画、教育普及等に取り組み、一般社会と美術・芸術との接点を創造していく学芸員の資質として重要なものである。
実務経験のある教員	
評価明細基準	1)受講生は毎回の講義でコメントシートを記入し、提出する。コメントシートは、授業者にとっては、受講生が授業内容をどのように受け止めたか、それについての考察はどうか、という点を把握するためのものである。受講生にとっては、授業内容を整理し、さらにそこから派生する自己の課題と向き合うためのものである。2)受講生は課題レポートを提出する。課題レポートは、提起された課題に沿ってテーマを設定し、借り物ではない自分の言葉で、論理的にテーマに迫っていくものである。この科目の評価の重要な部分を占める。3)以上に加えて、授業態度等を加味して評価を行う。

1)美術館や博物館、資料館等のスケジュールについて関心を持ち、折りに触れて自ら鑑賞の機会を持つように心掛けること。会場で気付いた事柄は、その都度メモを取っておくようにする。その際にはインクを用いたペンではなく鉛筆を使用すること。2)指定の教科書にとどまらず、参考書、関連図書に挙げた書籍も読んでおくことが望ましい。

学修上の
注意
(SBOs)

授業計画					
回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
1回	テーマ	学ぶにあたって1 美とは何か	講義	復習:配布資料の再読	30
	内容	美しいというごとの意味、芸術とは何が（「美学入門」より）			
2回	テーマ	学ぶにあたって2 美は存在の恵みである	講義	復習:配布資料の再読	30
	内容	美は人間にとって思えば思うほど、貴重な価値ではなからうが（「美について」より）			
3回	テーマ	キュレーターとは	講義	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	キュレーターとは何か、キュレーターの種類等			
4回	テーマ	展覧会の企画	講義	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	デザインとインスピレーション、展覧会概要の文書化、展示作品のリスト作成等			
5回	テーマ	展覧会の予算と資金調達、交渉、契約	講義	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	予算の編成、スポンサーの獲得、交渉、契約、展覧会のスケジューリング等			
6回	テーマ	展覧会の出版物、広報物	講義	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	カタログ作成、執筆依頼、著作権、冊子やパンフレット、ポスター・チラシ等			
7回	テーマ	展示空間のデザイン、空間と来場者	講義	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	空間を歩いての展覧会デザイン、作品の配列、グラフィック、空間と来場者アクセス等			
8回	テーマ	作品借用関連手続き、作家との共同	講義	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	借用依頼、設備の報告、作家や作品貸与者との交渉、作家と共同する場合等			
9回	テーマ	作品輸送と受入れ	講義	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	保険、補償、輸送、作品到着後の対応等			
10回	テーマ	解説素材の執筆と作成	講義 及 び演習	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	キャプション、コーナーパネル、リーフレット、プレスリリース、広報資料等			

授業計画

回数 (日付)	授業内容		講義形態	学習課題（予習・復習）	時間（分）
11回	テーマ	作品展示設営	講義	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	作品の取り扱い、展示設営スケジュール、作品の固定、展示備品等			
12回	テーマ	照明	講義	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	既設のシステム確認、作品素材による照明レベル、空間の快適性と光等			
13回	テーマ	スタッフの共通認識、オープン	講義	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	スタッフの共通認識、セキュリティ対策、展覧会オープン等			
14回	テーマ	会期中の業務、イベント関連	講義	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	会期中のルーティンワーク、イベント、教育普及、問い合わせ対応等			
15回	テーマ	作品撤収、返却 講義のまとめ	講義	予習:テキストの該当部分の読了 復習:講義内容のノートメモ再確認	40 20
	内容	会期終了後の作品撤収、返却等			